



「実行力に期待」

7月から8月にかけて、茶や水稲などを栽培する担い手農家11軒を訪問。今回の取り組みに対して、農家からは「こうして直接対話したのは初めてだった」「要望したことへの実行力に期待したい」などの意見が出ました。



声を聴く。 未来につなぐ。

担い手農家を訪問 ～役員がおじゃまします～

今年5月に改選した新役員！
私たちが訪問します！



「より良いJAに自ら変えていく」。
JAが自己改革を行う上で、
原点となるのが組合員との対話です。
これまでの訪問活動や座談会に加え、
7月からは常勤役員による
担い手農家訪問をスタートしました。
農業者の所得増大、地域の活性化につながるため、
組合員との関係強化に向けた取り組みを進めます。

組合員の声の原点

平成28年度から取り組んできたJAの自己改革は、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とし、掛川茶の販路拡大、イチゴの取扱高の拡大、直売所による販売強化などを進めてきました。令和4年度からは、自己改革の実践を支える経営基盤の確立・強化や准組合員を含む組合員との対話・意思反映も進めることで、更なる進化を目指しています。

その自己改革の基本となるものは、組合員との対話です。所得増大の実現に向け、ニーズを的確に把握するため、これまで訪問活動や座談会などを通じて声を聴いてきました。そこから更なる取り組みの推進を図るため、7月からは榛葉総組合長ら常勤役員による担い手農家訪問を実施。JA農業後継者表彰の表彰者を対象に、榛葉組合長や大場秀明専務、川隅弥寿吉常務が11軒を訪問しました。

活発な話し合いに

役員らは、営農課の部会担当者や営農経済センターの営農相談員らとともに、圃場や自宅を訪問。生産現場での課題やJAの運営体制などについて質問しました。生産者からは、生産コスト増加への対策や職員による情報提供を求める意見、要望が出るなど、活発な話し合いとなりました。

茶農家や水稲農家らを訪問した榛葉組合長は、「20～30年前と比べて経営環境は厳しく、夢を抱きづらい状況にある。JA事業に組合員の意思を反映させるためには、もっと役員が担い手とのコミュニケーションを深め、信頼し合える関係を作っていくなくてはならない」と話します。今後も組合員訪問は継続する予定で、意見・要望については、随時検討、対応していきます。



未来につなぐ。



声を聴く。

これからの取り組み



茶販売力の強化

茶の取扱高は年々減少し、単価、生産量も減少傾向が続いています。茶販売業務に係る業務運営の見直しや改善を行い、販売価格の維持、安定を目指します。また、産地の強みを生かし、茶商と連携した高付加価値茶生産の拡大を支援します。

- 有機JAS規格茶生産の拡大(7ha増加)に向けた研究
- 新規取引茶商社の開拓
- 碾茶製造に関する情報収集



営農指導の強化

JA営農指導員には、高度な営農指導や経営支援のほか、多様な農業者に対する指導が求められています。農家組合員の農業経営に応える指導体制を構築するため、人材育成のための営農指導員育成プログラムの整備に取り組みます。

- 農家組合員の農業経営に応える職員を育成



複合作物の推進

茶生産者の所得が減少傾向となっている中で、農家所得の向上を図る必要があります。また、複数の品目を取り入れた複合経営については、総合的な支援が求められています。土壌に合った作物を提案し、農閑期に生産できる品目の推進を強化します。

- 栗、レタス、キャベツ、白ネギなどの作付け推進
- 市場出荷、加工用、輸出などの積極的な販売強化



労働力確保の支援

労働力不足により周年雇用の確保が困難な状況です。生産拡大を支えるためにも、労働力確保の支援が重要となります。農業の輪旋を行う無料職業紹介所の開設に加え、JA中央会の求人サイトを活用していきます。

- JA掛川市無料職業紹介所の開設
- 求人サイトの活用

政策や補助金などの情報をいち早く知りたい。

営農職員を育ててほしい。

苺パッケージセンターの受入量を増やしてほしい。

役員訪問であがった生産者の声

(一部)

JA職員の巡回、訪問が少ない。畑にいて見たことがない。

資材の高騰対策を実施してほしい。

JAには茶の販売力を求めている。

複合作物の品目提案、サポート、フォローをしてもらいたい。

碾茶を製造するための碾茶炉が必要となっている。

年間雇用に課題を感じている。



榎葉 稔 組合長

信頼し合える 関係に

信頼し合える

まだ件数は少ないですが、今回の訪問で担い手農家の経営環境などを聞くことができました。20〜30年前と比べて農業情勢が厳しいこともあり、時間的、金銭的な余裕が持てず、規模拡大など前向きな目標を立てにくい状況にあります。また、それに伴い連帯感が希薄になっているとも感じます。農業振興を進めるためにも、JAとしての支援を強化していかなくてはなりません。JAに対しての要望が少なかったことにも危機感を覚えました。「発言しても仕方がない」というような半ば諦めた気持ちや、単なる消費者と販売店のような関係になってしまっているのではないかと危惧します。もっとJA役員が担い手や組合員とのコミュニケーションを深めていかないと、信頼し合える関係にはなりません。2か年計画で掲げた営農指導員の強化などを進め、皆さんの期待に応えていきたいと思っています。

あなたの声も聞かせてください
JA事業に関して、皆さんの意見を受け付けています。
下記からお問い合わせください。

JA掛川市ホームページ
お問い合わせ



JA掛川市広報
メールアドレス



ja-kakegawa@docomo.ne.jp